

編集後記

2016年度、東亜同文書院大学記念センター刊行の『同文書院記念報』第25号をお届けします。

第25号では、はじめに研究論文3本、そして資料紹介という記念センターの研究機関としての成果報告を掲載しています。いずれも、東亜同文書院にまつわる多方面の活動に焦点をあてたものです。彙報欄に収録しました国際シンポジウム、ワークショップでの報告や、日常的な研究活動の成果です。

講演記録では、記念センターの研究事業の柱のひとつである東亜同文書院から愛知大学への接合について、日本近代の高等教育機関の歴史の中に位置づけることをふまえて、2016年度に行われた講演会・展示会、また前国立国会図書館長大滝則忠氏、前学長佐藤元彦教授、現学長川井伸一教授のお話を掲載致しました。

さらに、長らく短期大学部に設置され、海外からの留学生の日本語力育成に大きな功績を挙げた留学生別科についての記録も貴重なものです。

2016年度は、5年来の文部科学省支援プロジェクト「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の最終年度でありました。文科省支援プロジェクトに関しては、2017年3月から、それぞれの研究グループによる研究論文集などが刊行されます。いずれも、各グループの研究成果として東亜同文書院の総体を多方面から照射するもので、日本の近代と密接に関わってきた東亜同文書院についての地道な研究による検証を経ております。後世の批判に耐えうるものと自負しております。

また、2016年度は愛知大学創立70周年でありました。70周年記念事業の一環として、大学記念館の内装・外壁補修工事を行い、展示スペースも拡張致しました。2016年度中にも、10月にルーマニアの俳画家コッドレスクの展覧会を開催するなど、展示施設として国際的なスペースとなっています。2017年度には本学卒業生である平松礼治画伯、同じく卒業生の写真家東松照明氏の展覧会を記念センター展示室において開催する予定です。

なお、『同文書院記念報』は自由な言論の場であります。従って、掲載された文章の主張はあくまでも執筆者個人のものであり、本センターとは必ずしも一致するものではないことをご承知おき下さい。

最後に、第25号巻頭グラビア8ページにおいて、新装改修直後の大学記念館の写真を掲載しました。築108年の建物の素晴らしさを知っていただき、本学豊橋キャンパス大学記念館に足をお運びいただきたくお誘い申し上げます。

2017年3月31日

愛知大学東亜同文書院大学記念センター長 三好 章